

**地球温暖化対策推進事業（2050年カーボンニュートラルシティ表明、各種補助金等）**

アナ： 「市長が語る 2022 三島」第3回の今日は、「地球温暖化対策推進事業」、その中でも2050年カーボンニュートラルシティ表明と各種補助金制度についてお話を伺います。

豊岡市長、よろしくお願ひします。

市長： よろしくお願ひします。

アナ： 「カーボンニュートラル」という言葉、たびたび新聞などで見かけますが、一体どういった意味なのでしょう。

市長： 近年、地球温暖化を主な原因とする気候変動によって、集中豪雨の多発や台風の大型化など気象災害が深刻な状況となっていますが、それを抑制するためには、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする必要があると言われてています。

「カーボンニュートラル」とは、化石燃料を燃やすことによって大気中に排出される温室効果ガスの量を、様々な対策を講じてできる限り減らすとともに、その上で排出される温室効果ガスも森林で吸収されることなどを考えあわせ、全体として差し引きゼロにすることです。

アナ： このたび三島市は、2050年カーボンニュートラルシティ表明を行いました。その狙いをお聞かせください。

市長： はい。

三島市は、この4月からスタートしました第3次三島市環境基本計画に含めて、三島市全域の温室効果ガス排出量を削減するための計画として「三島市地球温暖化対策地方公共団体実行計画（区域施策編）」を策定しました。この計画において、温室効果ガス排出量の削減目標を2013年度に対し、2031年度までに46%以上、2050年までに実質ゼロとするよう定め、推進していく取り組みをまとめました。

非常に高いハードルではありますが、湧水やせせらぎなど、かけがえのない三島の環境を未来へ引き継いでいくことを目指し、市としての責務を果たすとともに、市民や事業者の皆様と一緒に進めるために表明したものです。

アナ： 温室効果ガスを減らしていくには、どのような対策が効果的なのでしょう。

市長： 再生可能エネルギーの利用拡大と省エネルギー対策の徹底が効果的です。

太陽光などの再生可能エネルギーは、化石燃料を燃やさないで二酸化炭素を排出しません。

また、電気を効率よく使うために、LED照明をはじめする省エネルギー設備の導入が大切です。

アナ： なるほど、よくわかりました。

カーボンニュートラルシティを目指して、三島市が今年度実施する取り組みについて教えてください。

**市長：** 市民の皆様に対しましては、これまで住宅に太陽光発電システムやリチウムイオン蓄電池システム、燃料電池システム、太陽熱利用システムを設置する方に対して、設備の導入に係る費用の一部を補助しておりましたが、新たに、今年度からは、電気自動車やハイブリッドカーと住宅との間の電気のやりとりを可能にするV2H充放電システムも対象としました。

アナ： 事業者に対する取り組みにはどのようなものがあるのでしょうか。

**市長：** はい。

また、新たに、市内の中小企業者に対し、省エネルギー設備への改修や再生可能エネルギー設備の導入に係る費用の一部を支援する補助事業を開始します。

個人商店を営んでいる方も対象となります。

アナ： 市民や事業者の取り組みを市が後押しするのですね。

ハード面における設備の導入のほかに、私たちがすぐできることはありますか。

**市長：** はい。

移動には徒歩や自転車、公共交通機関を利用する、自動車の運転ではエコドライブを心掛ける、分別によりごみを減らすことなど、すぐにできることもたくさんあります。

そして、何よりも環境問題に関心を持つことが、自分でつくる・加工する、必要なものだけを選びぬく、心のワクワクやお気に入り的大事にするといった持続可能なライフスタイルにつながり、それが自分なりの暮らしの価値を深め、心の豊かさをもたらしてくれるのではないのでしょうか。

2050年カーボンニュートラルシティの実現には、一人ひとりのライフスタイルの転換が非常に重要です。

市役所だけでなく、事業者や市民の皆様と力をあわせて、実現に向けて取り組んでいきたいと考えています。

アナ： 豊岡市長、本日はありがとうございました。

**市長：** ありがとうございました。